

令和4年6月市議会定例会 提案理由説明

本日ここに、令和4年6月越前市議会定例会が開会され、提案いたしました6月補正予算案をはじめ、各種案件のご審議を賜りたく、市政の諸課題についてご説明申し上げます。

2024年のNHK大河ドラマについて、紫式部を主人公に、その生涯が描かれるとの発表がなされました。

生涯でただ一度、都を離れて暮らした地が越前市であります。「源氏物語アカデミー」などの文化活動も長年にわたり行われるなど、市民にとって思い入れの深い紫式部です。

大河ドラマは、北陸新幹線開業の年に放映され、同年秋には、北陸三県で「DESTINATIONキャンペーン」も実施されます。

今月中に大河ドラマ放映に向けた市の組織体制を整え、これまで様々な活動をしてきた団体とも連携し、市民全体を盛り上げていきながら、全国への魅力発信と誘客に取り組んでまいります。

【総合計画の改定】

まず、市総合計画の改定について申し上げます。

4月21日に第1回総合計画審議会が開催され、このところ注目されている「一人ひとりが実感する幸せ」すなわち、「ウェルビーイング」が、計画の基本的な理念になり得るのではないかと考えております。

また、地域ミーティングや、市民意識調査、ワークショップなどを通じて、市民が抱える課題を引き出し、その課題解決のための政策を積み上げる「課題解決型」の総合計画とすることが、予測困難な時代の計画になると感じております。人生100年時代、生まれたばかりの子どもから、学生、社会人、高齢者に至るまで、それぞれの人生の各ステージにおいて、どこに住んでも、どんな境遇にあっても、幸福を実感できる「ふるさと」を実現してまいりたいと考えております。

【北陸新幹線関連】

次に北陸新幹線関連の取組みについて申し上げます。

5月15日に開催されました県北陸新幹線建設促進同盟会において、令和6年春の確実な県内開業、利用者の利便性の確保、また、大阪まで全線開業して初めてその効果が最大限発揮されることから、敦賀以西についても早急に財源確保を行い、令和5年度当初に着工し、一日も早い全線開業が実現できることを、沿線自治体を代表して、私から要請いたしました。

越前たけふ駅の周辺整備につきましては、現在進めている研究開発施設の誘

致を実現するため、4月に開催しました地権者説明会に私も出席し、地元に対して当事業に対する御協力をお願いしたところです。現在、戸別訪問を実施しており、今後も地元や地権者に対して丁寧に説明しながら進めてまいります。

また、宿泊施設や「食と農」の関連施設など、関係の企業等に対して、私や副市長がトップセールスを行っており、短期・中期で目指す産業等の集積を着実に実現するよう努めてまいります。

引き続き、地権者をはじめ、地元まちづくり協議会等のご意見をいただきながら、周辺整備を進めてまいります。

新幹線駅に併設される道の駅「越前たけふ」については、建築工事が完了しました。来年3月のオープンに向け、内装工事や備品、EVステーションなどの整備を進め、オープン後のにぎわい創出について、指定管理者と広告宣伝やイベント開催などの協議を行ってまいります。

並行在来線については、3月28日に県並行在来線利用促進協議会が設立され、並行在来線「ハピラインふくい」の利用促進に向け、駅の美化活動や鉄道・駅舎を利用したイベント等の活動に取り組む団体への支援制度が設けられたところです。本市においても、令和7年春にキャンパスが集約される武生商工高校生徒の通学による利用を促進するため、地元自治振興会や町内会等の協力を得ながら、新駅の駅前広場整備に向けた測量と基本設計を実施してまいります。

【新型コロナウイルス感染症対策】

続いて、新型コロナウイルス感染症について申し上げます。

本市では、4月末から児童や園児の感染が顕著になり、その後、家庭内感染が広がり、一時は70人を超える新規感染者が報告されました。

新型コロナワクチンの3回目接種については、今月末までに対象となる12歳以上の約7割の接種を終了する予定ですが、接種スピードが落ちてきていることから、特に接種率が低い若年層へのさらなる情報提供に努めてまいります。

また、60歳以上の方及び18歳以上60歳未満で基礎疾患を有する方を対象とする4回目接種の対応方針が国から発表されました。県や武生医師会と協力し、接種体制確保に努めているところです。

新型コロナウイルス対策事業につきましては、低所得の子育て世帯に対する「子育て世帯生活支援特別給付金」の実施に関し、所要額7,700万円を6月補正予算案に計上いたしました。

また、苦境に立つ市内事業所への支援策として電子クーポン「えちぜんし割」について、新型コロナウイルスの感染が沈静化しないこと、また、好評により登録店舗数が増え、使用枚数も伸びていることから、追加発行に係る所要額4,095万円を6月補正予算案に計上し、消費の喚起を進めてまいります。

また、「えちぜんし割マスク宴会割クーポン発行事業」につきましては、なかなか感染が収まらない中で、早期の効果発現を図るため、当初10人以上としていた利用人数を、4人から利用できるような要件を緩和し、本日5月20日より、事業を開始いたします。このクーポン発行により、市内飲食店でのマスク会食を促し、特に大きな影響を受けている市内飲食店を支援してまいります。

【観光誘客】

続いて観光誘客について、申し上げます。

令和5年秋公開予定の映画「おしよりん」の地元ロケが「旧谷口家住宅」において、4月中旬から約1週間行われ、市民のエキストラ出演や、地元食材で作った鍋の振る舞い、飲食店などからの差し入れなど、盛り上がりを見せました。全国約150館において上映が予定されており、本作ならびに映画冒頭で上映される北陸新幹線開業PR動画をとおして、市の魅力を広くPRできるものと考えております。

本年度5回目となる「千年未来工藝祭」が8月27日・28日に開催されます。産地や事業者のブランド価値の向上や、次世代を担う人材の育成を図り、またクリエイターの来訪を促して、ビジネスマッチングを支援するなど、伝統産業を生かした産業観光を推進してまいります。

また、中心市街地エリアに市の支援制度を活用した総菜販売店と定食屋、武生中央公園近くに文具店がオープンし、新たな賑わいが創出されています。さらにまちなかへ誘導するため、観光サインの整備に向けた現況調査や課題整理等に取り組み、ウォーカブルな（歩きたくなる）まちづくりを進めてまいります。

市のサマーフェスティバルについては、8月14日に武生中央公園にて「ふるさと祭り」を、15日には日野川河川緑地公園にて「花火大会」が予定されています。なお、開催については、6月15日の実行委員会において最終決定されます。

「2022たけふ菊人形」については、会期を10月7日から11月6日までの31日間として開催予定です。「かわいい動物のおとぎ話」をテーマとした童話の世界を表現し、菊花を中心に花で装飾したフォトスポットの増設などにより会場は華やかに演出されます。

今年度改定予定の観光振興プランは、総合計画の最も重要な柱でもあると考えており、相互に連動させながら、改定を行ってまいります。プラン改定にあたっては、「観光地の認知」から「旅行先の検討」「旅行先の手配」「旅行する」までのサイクル、いわゆる「トラベルライフサイクル」の考え方を取り入れて、新しい圏域から効果的な誘客につながるものとなるよう検討してまいります。

【産業関連】

続いて産業振興について申し上げます。

雇用情勢については、令和4年3月の福井県の有効求人倍率が2.05倍と全国で一番高く、企業の人員確保には厳しい状況が続いています。ハローワークや学校、事業所と連携し、本市で働くことの魅力をウェブサイト「越前WORK魂」などで伝え、少しでも多くの方に越前市内で働いてもらえるよう取り組んでまいります。

【農業関連】

続いて農業について申し上げます。

販売農家への物価高騰等に対する支援としまして、価格が高騰している農機具用の燃油や肥料の高騰分を緊急的に補助するため、所要額3,290万円を6月補正予算案に計上いたしました。

また、小麦等海外からの輸入に頼っている様々な食材が高騰してきています。

食料自給率が低い日本では、遠く離れた生産地から食料を輸送しているため、フードマイレージを意識した地産地消の推進や、越前ごはん塾の開催など米の消費拡大を図ってまいります。

次に、コウノトリが舞う里づくりについては、市内3か所の人工巣塔に営巣している野外コウノトリのうち、安養寺町と下中津原町の巣塔でひなが誕生しました。環境調和型農業の推進や休耕田ビオトープ等の整備を通じて、自然環境と農業・農村の活性化との調和を図ってまいります。

鳥獣被害対策については、市鳥獣被害防止計画の計画期間が本年度末に終期を迎えることから、鳥獣による被害防止の施策を総合的かつ効果的に推進するため、国の指針や県の鳥獣保護管理事業計画との整合性を図り、本年度中に改定を行ってまいります。

【環境関連】

続いて、環境への取組みについて申し上げます。

脱炭素社会の実現に向けた取組みといたしまして、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に基づく買取期間が完了した電力を公共施設に供給する取組みを北陸電力株式会社とともに開始しました。市内で電力を保有する方から150件を超える賛同をいただき、5月下旬からエコビレッジ交流センターにおけるすべての電力に使用していく予定です。

また、国の脱炭素先行地域選定に対する取組みについては、早い段階での提案を目指し、第1次募集において選定された自治体などの取組み内容も参考に、太陽光・風力・水力などの再生可能エネルギー活用の可能性やエリアについて、関係者や専門家の意見をお聞きしながら検討を進めております。

【子育ての振興】

次に、子育て支援について申し上げます。

かねて、保護者から充実を求められてきた子ども医療については、現行では未就学児童のみ医療費無償化が実現しており、小学生から高校生までの子どもの受診時には1医療機関ごとに1か月あたり500円を上限として自己負担が生じているところです。

小学生以上の子どもをもつ保護者からは、新型コロナの様々な影響がある中で、就学前のみならず高校生までの切れ目ない支援を求める要望をいただいております。市内小児科医等からのヒアリングも行い、また、子ども子育て会議において、子ども医療費の完全無料化について実現を望む意見をいただいております。子どもの福祉、保護者負担の軽減、併せて医療機関の利便を図るため、小学生から高校生までの子どもの医療機関受診時の自己負担金の撤廃について、できるだけ早期の施行を目指して準備を進めたいと考えております。

西校区における公立認定こども園の整備について、コロナ禍や不安定な世界情勢による建設資材の価格高騰を要因とした入札不調により、残念ながら開園が延期となりました。事業年度及び総事業費などの見直しを行い、継続費の組み換えと新たに必要となる経費について6月補正予算案に所要額を計上し、令和6年4月の開園を目指してまいります。

なお、園の名称は、広く公募を行った結果、「にじいろ」という名称を選考いたしました。今後は、多様性あふれる明るいイメージの「にじいろ」にふさわしく、多くの園児や地域の方々、市民のみなさんに愛される公立認定こども園となるよう、着実に整備を進めてまいります。

【教育の振興】

続いて、教育について申し上げます。

武生中央公園温水プールにおける小学校水泳学習事業については、株式会社カワイトレーニングパークに委託し、5月11日の武生西小学校4年生を皮切りにスタートいたしました。

天候に左右されることなく授業が実施でき、民間事業所の水泳指導のノウハウを活用することにより、児童の泳力向上が期待できます。今年度は、武生西小学校など6校の小学校で実施してまいります。

沖縄返還50年を記念し、武生公会堂記念館において、7月15日から、本市出身の国際政治学者若泉敬氏の足跡に迫る「世界への架け橋として 若泉敬」展を開催します。今、ウクライナ侵攻の様子を報道によって目の当たりにして、平和の尊さを改めて強く思うところです。企画展では、戦争の苦難を乗り越え現在に至るまで続く「平和のいしずえ」と、福井と沖縄、若泉氏の足跡

を紹介してまいります。

【市民協働・男女共同参画】

次に地域との協働、性の多様性について申し上げます。

「2022地域ミーティング」については、各地区自治振興会のご協力のもと、5月11日から順次開催しており、計8回開催の予定です。「地域と行政との協働によるまちづくりの推進」をテーマに掲げ、各地区の取組みや自治振興事業の課題、市総合計画の改定などを中心に意見交換を行っております。当ミーティングの開催にあたっては、市民からのご意見をお聞きすることを最優先とし、把握した地域課題を市政と市総合計画の改定に反映してまいります。

また、性的少数者の方々の自分らしい生き方を後押しし、性の多様性に関する社会的な理解を促進するため、新たにパートナーシップ制度の導入に向けた検討を進めています。パートナーシップ制度は、パートナー同士が、互いの関係性を宣言し、市がこれを証明することにより、例えば、税証明の手続きに関して、同居親族と同様な扱いになるといった行政サービスが考えられます。民間事業者のサービスなどを含め、利用可能となるサービスが社会全体で増えるようにしていくことも大切だと思います。

【危機管理強化】

次に危機管理強化に関する取組みについて申し上げます。

防災危機管理については、出水期を前に災害対策本部職員による本部設置運営訓練を5月11日に実施し、災害時の初動体制や迅速な情報収集・発信体制を再確認いたしました。また、広域避難場所を担当する職員の避難場所開設・運営訓練を5月10日、19日に開催し、降雨期に備えて体制強化を図りました。

近年、各地で記録的な大雨などが発生している状況を踏まえ、自主防災組織リーダー育成研修などの開催により、地域防災力の充実・強化を図ってまいります。

【社会基盤の強化】

続いて、社会基盤の強化について申し上げます。

本市西部地域の幹線道路である旧丹南広域農道の4車線化については、国道8号と4車線道路でつながり、環状化を図ることによって、交通渋滞が低減し、円滑な市内移動を実現する重要な事業と考えております。地権者をはじめ、地元町内や関係機関のご理解が得られるよう、説明会を開催するなど、県と協力して事業を促進してまいります。

消雪施設については、市道路無雪化事業整備計画に基づき、冬期間における中心市街地と東部地域を結ぶ幹線道路の円滑な交通を確保するため、雪寒地域

道路整備事業の推進に係る所要額1億3,411万7千円を6月補正予算案に計上いたしました。

【自治体DX】

最後に自治体DXの推進に関する取組みについて申し上げます。

行政のDXについては、マイナポータル上の電子申請システムを利用したサービスや、県の電子申請・施設予約システムを利用したサービスなど、分散しているサービスを集約することにより利便性の向上を図るため、LINEの公式アカウントを開設し、4月から行政窓口の運用をはじめております。

地域のDXについては、昨年度から取り組み始めた地域安全安心マップ「キッズセーフ」が、デジタル田園都市国家構想の推進交付金事業に採択されました。本年度は、新たな企業の参加を得て、危険個所の検証を進め、子どもたちの安全安心な環境づくりに努めてまいります。地域活動に則した機能向上と自治連合会や自主防災組織などへの紹介により、さらなる他自治振興会への横展開を促してまいります。

【結びに】

以上、当面する市政の諸課題及び予算案の概要について述べさせていただきました。

何とぞ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、議案第27号から議案第34号までの提案理由については関係部長よりご説明申し上げます。